

第10回 防災推進国民大会 (ぼうさいこくたい2025 in 新潟)開催

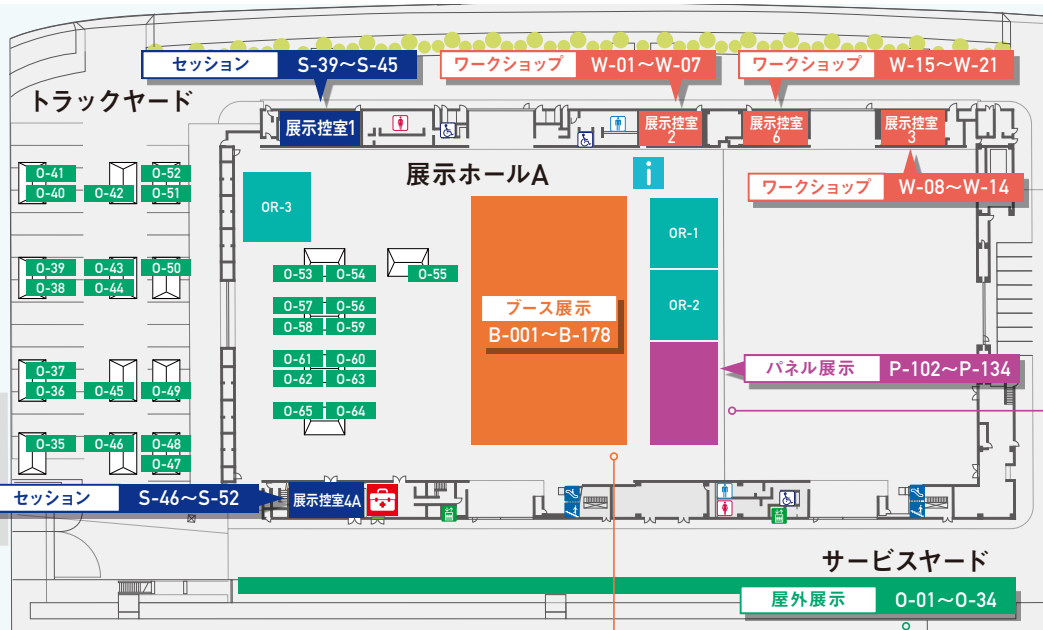
<https://bosai-kokutai.jp/2025/>



防災推進国民大会(通称:ぼうさいこくたい)は、内閣府等が主催し、産学官民の関係者が日頃から行っている防災活動を発表し、交流する日本最大級の防災イベントである。

2016年から開催しており、2025年(第10回)は、9月6日⑤・7日⑥の二日間、新潟県新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター(新潟市中央区万代島6番1号)にて「語り合い、支え合い、～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～」というキャッチにて開催された。※一部オンライン配信開催。

新潟県は、2004年に中越地震等を経験しており、その経験や教訓を次世代に伝え、将来の災害に備えるという趣旨にて行われ催しである。



「ぼうさいこくたい」とは？

国(内閣府等)が主催し、産官学、NPO・市民団体や国民が日頃から行っている防災活動を全国的な規模で発表し、交流する日本最大級の防災イベントで、全国から1万人以上が来場。

2日間にわたって、約300の団体・機関が出展し、防災に関する様々な講演、パネルディスカッション、ブース展示、屋外展示などを実施している。

(本文内写真:株サンビジョン 山本宗治氏)

愛子さま、防災推進国民大会のセッションを聴講

新潟県を訪問していた天皇、皇后両陛下の長女愛子さまは9月7日、新潟市の朱鷺メッセを訪れ、防災推進国民大会のセッションを聴講した。能登半島地震での社会福祉施設への支援状況などが報告され、愛子さまは熱心に聴き入っていた。

愛子さまは「災害福祉支援～令和6年能登半島地震における災害福祉支援活動と今後の展望～」と題したセッションを聴講した。

福祉の専門家として被災地に入る「災害派遣福祉チーム(DWAT)」の活動や、今後の課題について、新潟大学危機管理本部危機管理センターの田村圭子教授や、社会福祉法人理事長らが発表。愛子さまは最前列に座り、メモを取りながら話を聞いていた。



写真:防災推進国民大会の会場に入り、関係者と言葉を交わす天皇、皇后両陛下の長女愛子さま=2025年9月7日午前10時32分、新潟市、井手さゆり撮影



防災推進国民大会は内閣府が主催し、産学官民の関係者が交流する日本最大級の防災イベント。

愛子さまはかねてより福祉活動に関心があり、現在は日本赤十字社で常勤の嘱託職員として勤務している。今年5月には、石

川県七尾市を訪れ、能登半島地震の被災者と交流していた。

■当記事、写真とも
<https://www.asahi.com/articles/AST970TTKT97UQIP007M.html>



第10回 防災推進国民大会 in 新潟



朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター



国際会議場入口



ブース展示の様子



国際会議場入口



屋外診療所



野外薬局



地震体験車



パネル展示コーナーの様子

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

セッション

S-01 6 9:00 ~ 10:00 4F 国際会議室 (主会場) 一般向け

オープニングセッション

主催団体：内閣府

・関係者挨拶
内閣府、日本赤十字社社長、新潟県知事、新潟市長

・出し物
BLOOM WORKS(音楽ユニット)、小林幸子 (歌手)

・基調講演
森民夫 前新潟市長
「中越地震を振り返って一創造的復旧の道程」



清家 篤 (防災推進協議会会長・防災推進国民会議議長 日本赤十字社社長)、花角 英世 (新潟県知事)、中原 ハー (新潟市長)、森 民夫 (前新潟市長)、小林 幸子 (歌手)、BLOOM WORKS (防災音楽ユニット)

S-03 6 12:30 ~ 14:00 4F 国際会議室 (主会場) 企業向け | 一般向け

中越地震を越えてー新潟から次世代へのメッセージー

主催団体：新潟県

平成16年に発生した中越地震は、新潟県の災害対策や復興の在り方を大きく変えました。

本セッションでは、大学・民間・報道という異なる立場で復興に携わってきた3名の登壇者が、地域との関わりや再生の歩みを振り返りながら、「地震があったからこそ見つけ直せた地域の力」について語ります。

次なる災害に備え、地域との向き合い方や災害の教訓を次世代へつなぎます。



上村 靖司 (長岡技術科学大学 教授)、諸橋 和行 (公益社団法人中越防災安全推進機構 事務局長)、酒田 暁子 (株式会社なるほど新潟Creative Works 代表取締役)

S-05 6 16:30 ~ 18:00 4F 国際会議室 (主会場) 自治体向け | 一般向け

災害大国日本におけるこれからの防災
～防災庁の果たすべき役割について～

主催団体：内閣官房防災庁設置準備室

令和8年度中に設置予定の「防災庁」について、「わが国の防災の在るべき姿、防災庁が担うべき役割」をテーマに有識者とともにパネルディスカッションを行います。



福和 伸夫 (名古屋大学名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長)、大木 聖子 (慶應義塾大学環境情報学部准教授)、横沢 和彦 (新潟大学医学部総合研究科先進血管病・塞栓症治療・予防講座特任教授)、廣井 悠 (東京大学 教授)、山本 尚範 (名古屋大学減災連携研究センター 講師 / 医学部附属病院救急科 診療科長)、白田 裕一郎 (国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災研究領域 / 防災DX官民共創協議会 理事長)、御手洗 哲郎 (防災庁設置準備室 参事官)

S-07 7 10:30 ~ 12:00 4F 国際会議室 (主会場) 専門向け(学術界) | 自治体向け

災害福祉支援
～令和6年能登半島地震の取り組みと課題、今後の展望～

主催団体：災害福祉支援ネットワーク中央センター

令和6年能登半島地震は、全都道府県の災害派遣福祉チーム(DWAT)が活動した初めての災害であり、社会福祉施設への応援派遣もこれまでで最長・最多規模であった。そこで、本セッションでは、令和6年能登半島地震における災害福祉支援の状況と課題、今後の展望について振り返り、今後のDWATのあり方や災害福祉支援について討議し、参加者の防災、災害支援活動に資するものとする。



田村 圭子 (新潟大学危機管理本部危機管理センター教授 / 「令和6年能登半島地震に係る災害派遣福祉チーム(DWAT)の活動や介護職員等の応援派遣の検証」検討委員会 委員長)、中田 淳 (石川県厚生政策課 主幹)、高杉 成一郎 (社会福祉法人峰栄会 理事長)、渡邊 麻由 (長泉町社会福祉協議会 地域福祉活動部門主任 主査)

S-02 6 10:30 ~ 12:00 4F 国際会議室 (主会場) 一般向け

ハイレベルセッション

主催団体：内閣府

内容「中越地震等と復興・災害への備え」

登壇者
・矢守克也 京都大学防災研究所教授 ※司会
・田村圭子 新潟大学危機管理センター教授
・澤田雅浩 兵庫県立大学減災復興政策研究科准教授
・諸橋和行 中越防災安全推進機構事務局長
・宮崎悦男 小千谷市長
・小林幸子 歌手

挨拶 内閣府防災担当審議官



矢守 克也 (京都大学防災研究所教授 (地区防災計画学会会長))、田村 圭子 (新潟大学危機管理本部危機管理センター 教授)、澤田 雅浩 (兵庫県立大学減災復興政策研究科准教授)、諸橋 和行 (公益社団法人中越防災安全推進機構 事務局長)、宮崎 悦男 (小千谷市長)、小林 幸子 (歌手)

S-04 6 14:30 ~ 16:00 4F 国際会議室 (主会場) 自治体向け | 一般向け

～南海トラフ地震などの巨大地震をどのように乗り越えるか～
国・自治体・個人がやらなければならないこと

主催団体：内閣府防災担当 (調査・企画担当)

今年3月、内閣府は南海トラフ地震の新たな被害想定を公表しました。このセッションでは、「南海トラフ地震などの巨大地震をどのように乗り越えるか」をテーマに、自治体における取り組み、過去の災害事例から学んだ教訓、そして個人や家庭がとるべき行動などを多角的に議論します。登壇者には、各分野の専門家に加え、実際に災害対応を担う自治体関係者も参加。いざという時に命を守るために、今、私たちにできることを考えます。



福和 伸夫 (名古屋大学名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長)、入江 さやか (松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 (地域防災科学研究所) 教授)、小山 真紀 (岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授)、竹沢 淳一 (石川県 危機管理部長)、江洲 誠 (高知県 危機管理部長)、森久保 司 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付参事官 (調査・企画担当))

S-06 6 18:15 ~ 19:30 4F 国際会議室 (主会場) 企業向け | 一般向け

内閣府・TEAM 防災ジャパン連携「大交流会」

主催団体：TEAM 防災ジャパン・内閣府

司会 中川 和之(時事通信社客員解説委員 (TEAM防災ジャパンアドバイザー))

開始
開会挨拶 内山 晃治 内閣府政策統括官 (防災担当)
付参事官 (普及・防災教育・NPOボランティア連携担当)
福和 伸夫 名古屋大学名誉教授 (TEAM防災ジャパンアドバイザー)

出展団体等PRタイム

閉会挨拶 西澤 雅道 内閣府政策統括官 (防災担当)
付企画官 (普及・防災教育・NPOボランティア連携担当)
鍵屋 一 跡見学園女子大学教授 (TEAM防災ジャパンアドバイザー)

終了



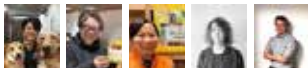
中川 和之 (時事通信社客員解説委員 (TEAM防災ジャパンアドバイザー))、内山 晃治 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付参事官 (普及・防災教育・NPOボランティア連携担当))、福和 伸夫 (名古屋大学名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長 (TEAM防災ジャパンアドバイザー))、西澤 雅道 (内閣府防災担当企画官 (元 福岡大学法学部准教授))、鍵屋 一 (跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授 (TEAM防災ジャパンアドバイザー))

S-08 7 12:30 ~ 14:00 4F 国際会議室 (主会場) 企業向け | 自治体向け

能登半島地震の事例から、支援で目指す姿を考える

主催団体：認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOD)

避難生活における子どもの安心・安全な居場所の確保、被災した地域コミュニティの再建、ペットとの避難など、被災地・被災者が直面する困りごとに対して、能登半島地震で実際に支援活動を行ったNPOや企業の方々から、どのような支援が展開されたのか事例を伺います。その上で、支援の調整役を担う災害中間支援組織と共に、「支援で目指す姿」について意見交換を行います。



辻本 郁美 (認定NPO法人 日本レスキュー協会 動物福祉事業責任者)、松本 拓也 (株式会社日本エージェンシー アカウントディレクター)、高橋 布美子 (認定NPO法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 支援事業第2部 国内支援・アドボカシー課 課長)、清川 祐介 (新潟県災害ボランティア調整会議事務局 / 社会福祉法人新潟県社会福祉協議会 地域福祉課 主任)、明城 徹也 (認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOD) 事務局長)

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

S-09 7 14:30 ~ 16:00 4F 国際会議室(主会場)

自治体向け | 一般向け

地域総合防災力の発揮

主催団体：公益財団法人 日本消防協会

開催地新潟では、中越地震などの地震災害のほか、洪水や豪雪など、さまざまな災害を体験し、地域内のいろいろなお立場の方々の参加や地域間の連携など、いわば、地域の幅広い皆さんの参加による地域総合防災力の充実に取り組んでおられる。そのような具体的な活動事例を発表して頂くとともに、有識者を交えた意見交換を行い、地域の皆さん総参加による地域総合防災力の一層の向上を目指す。



中野 雅嗣 (NPO法人 ふるさと未来創造堂 事務局長)、櫻澤 秀子 (新潟県女性防火クラブ連絡協議会 会長、水沢女性防火クラブ 会長)、門前 浩司 (総務省消防庁 国民保護・防災部長)、新潟県防災局、中村 広栄 (新潟県防災局長)、豊田 光世 (新潟大学 佐渡自然共生科学センター教授)、秋本 敏文 (公益財団法人 日本消防協会 会長)

S-11 6 10:30 ~ 12:00 2F スノーホール A

自治体向け | 一般向け

気象データの利活用をさらに進化させるには？東大先端研 ClimCORE の活動から紐解く気象データの利活用と展開

主催団体：東京大学先端科学技術研究センター ClimCORE

激甚化する豪雨に対応するため、自治体職員向けの訓練が多く展開する中で、いかに現実に近い気象条件を設定するかが課題となっている。本セッションでは、東京大学先端科学技術研究センター・ClimCOREと気象庁気象研究所が提案する新たな豪雨対応訓練用気象シナリオを紹介する。熊本県における事例、宮城県気仙沼市の事例を自治体職員の立場から紹介し、本取り組みの可能性と今後の課題を議論し、今後の展開へとつなげる。



本田 明治 (新潟大学大学院 自然科学研究科・教授)、高橋 義宏 (主幹 (元危機管理監))、和田 大志 (熊本県知事公室 危機管理防災課・課長補佐)、大津山 聖介 (東京大学先端科学技術研究センター・減災まちづくり分野・特任講師)

S-13 6 14:30 ~ 16:00 2F スノーホール A

専門向け(学術界) | 一般向け

コミュニティ防災セッションー災害教訓伝承とコミュニティ防災の在り方 2022 年豪雨を踏まえてー

主催団体：内閣府防災担当・地区防災計画学会・情報通信学会災害情報法研究会・新潟県防災企画課

1967年の羽越豪雨等の災害教訓を伝承するため、「大したもん蛇まつり」を開催する等日頃から防災活動を行っていたことから、2022年の豪雨の際に関川村では、犠牲者が出ませんでした。また、村上市でも災害教訓を踏まえて、住民同士で声を掛け合って早期避難を実施したことから、住民の命が守られました。これらの事例を踏まえて、有識者と一緒に災害教訓伝承とコミュニティ防災の在り方について検討を行います。



矢守 克也(京都大学防災研究所教授 (地区防災計画学会会長))、加藤 孝明 (東京大学生産技術研究所教授 (地区防災計画学会副会長))、磯打 千雅子 (香川大学IECMS地域強靱化センター准教授)、佐藤 翔輔 (東北大学災害科学国際研究所准教授)、坊農 豊彦 (地区防災計画学会理事・事務局次長 (大阪公立大学客員研究員))、松本 佐一 (新潟県村上市小岩内地区元区長)、高野賢二 (新潟県村上市小岩内地区・防災士)、西澤 雅道 (内閣府防災担当企画官 (元 福岡大学法学部准教授))

S-15 7 10:30 ~ 12:00 2F スノーホール A

企業向け | 一般向け

マルチハザード対応の防災教育

主催団体：防災教育チャレンジプラン実行委員会

『マルチハザード対応の防災教育』をテーマとし、地震・風水害・火山噴火・雪害等の様々な自然災害とその社会的な影響(マルチハザード)に、防災教育はどのように対応するのかについて、新潟県内の取り組みを事例発表していただきます。その後、トークセッションではマルチハザードに対応した防災教育の実践事例や課題、他地域・組織への展開のヒント、工夫等について防災教育の専門家と交えて意見交換を行います。



永田 俊光 (新潟県地方気象台 リスクコミュニケーション推進官)、松井 市子 (新潟県立新潟高等学校 教諭)、木村 玲欧 (兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究所 教授、防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員長)、木下 史子 (文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官)、国崎 信江 (危機管理教育研究所 代表)、松木伸江 (神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授)

S-10 7 16:30 ~ 17:30 4F 国際会議室(主会場)

一般向け

クロージングセッション

主催団体：内閣府

- ・動画「ぼうさいこくたい2025振り返り」(大会ダイジェスト映像)
- ・特別企画「新潟から未来へ向かって」(新潟県生徒会連盟)
- ・大会総括
- ・関係者挨拶
日本消防協会会長、防災推進協議会運営委員会委員長・日本損害保険協会業務企画部長、次回開催県知事、内閣府



秋本 敏文 (防災推進国民会議副議長・日本消防協会会長)、流 友之 (防災推進協議会運営委員会委員長・日本損害保険協会業務企画部長)

S-12 6 12:30 ~ 14:00 2F スノーホール A

一般向け | 学生向け

【内閣府・国交省・文科省連携】地域の記憶を防災の力に変える ~ NIPPON 防災資産×次世代の力 ~

主催団体：内閣府・国土交通省

内閣府・国交省・文科省で連携し、「NIPPON防災資産」を通じて、今後の災害伝承や防災教育のあり方を考えるセッションを開催します。次世代を担う学生団体(大学生・高校生)がパネリストとして参加し、行政(内閣府・国交省・文科省)、NIPPON防災資産認定団体との間で、自由闊達な意見交換を行う予定です。



佐藤 翔輔 (東北大学災害科学国際研究所准教授)、新潟県生徒会連盟、明治学園高等学校 防災減災チームDPOMs、若者防災協議会、兵庫県立大学 学生災害復興支援団体LAN、えちごせきかわしたもん蛇まつり (毎年のもまつりと教育で伝える大水害 大蛇の長さ 82.8m に意味を込める)、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター (未曾有の都市型災害を語り部が伝え、迫力のコンテンツで世界に発信)、稲むらの火の館 (安政南海地震の記憶を伝え、施設、ガイドや語り部講座が備えを促す)、四国防災八十八話マップ (親しみやすいイラストマップで四国全域の災害を伝え教育や観光など多方面に活用)

S-14 6 16:30 ~ 18:00 2F スノーホール A

企業向け | 一般向け

地区防災計画フォーラム ―中越地震から21年 コミュニティや企業の防災活動の在り方―

主催団体：地区防災計画学会・防災推進協議会・情報通信学会災害情報法研究会・内閣府防災担当

中越地震から21年目を迎える新潟県で、創設11年目を迎えた地区防災計画制度をはじめとするコミュニティの防災活動の現状とその課題について、学術的・社会実証的な観点から議論を行います。



室崎 益輝 (神戸大学名誉教授 (地区防災計画学会名誉会長))、矢守 克也 (京都大学防災研究所教授 (地区防災計画学会会長))、加藤 孝明 (東京大学生産技術研究所教授 (地区防災計画学会副会長))、磯打 千雅子 (香川大学IECMS地域強靱化研究センター准教授)、澤田 雅浩 (兵庫県立大学減災復興政策研究科准教授)、佐藤 展章 (日本赤十字社 事業局 救護・福祉部長)、坊農 豊彦 (地区防災計画学会理事・事務局次長 (大阪公立大学客員研究員))、西澤 雅道 (内閣府防災担当企画官 (元 福岡大学法学部准教授))

S-16 7 12:30 ~ 14:00 2F スノーホール A

一般向け

中越地震の経験を次世代へ～備えを zero から学ぶネギ！～

主催団体：一般社団法人 日本損害保険協会

1. 基調講演「中越地震の経験を次世代へ」
＜講師＞上村 靖司氏 (長岡技術科学大学教授)
2. トークセッション
＜登壇者＞藤井 貴彦氏 (元日本テレビアナウンサー)
Nao☆・Megu from Negicco (新潟発アイドルユニット)、
上村 靖司氏 (長岡技術科学大学教授)
＜進行＞松本 亜美氏 (TeNYアナウンサー)



上村 靖司 (長岡技術科学大学教授)、藤井 貴彦 (フリーアナウンサー)、Nao☆・Megu (Negicco (新潟発アイドルユニット))、松本 亜美 (TeNYテレビ新潟アナウンサー)

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

S-17 7㊦ 14:30 ~ 16:00 2F スノーホール A

一般向け

「火山防災の日」啓発イベント

主催団体：内閣府、新潟県火山防災協議会（新潟県）

京都大学名誉教授の石原和弘氏の基調講演をはじめ、「新潟県における活火山から考える地域住民の火山防災意識の向上」をテーマにトークセッションを行い、その後質疑応答・会場との交流を行います。



石原 和弘（京都大学名誉教授）、久利 美和（文部科学省 研究開発局 地震火山防災研究課 測地学専門官）、山崎 貴之（新潟県地方気象台 地震津波火山防災情報調整官）、竹之内 耕（糸魚川市フォッサマグナミュージアム館長）

S-19 6㊦ 12:30 ~ 14:00 2F スノーホール B

専門向け(学術界) | 自治体向け

災害中間支援組織を核にした被災者支援のあり方を考える～災害 NPO・ボランティア団体と行政の顔の見える関係づくり～

主催団体：内閣府

令和7年7月1日に「被災者援護協力団体」登録制度の運用が開始されました。内閣府では、災害中間支援組織を核にして、被災者支援の経験豊かな団体と行政との顔の見える関係作りを、平時から進めていきます。このセッションでは、登録制度を一つの契機として、災害時に円滑な官民連携・民民連携を図るために何が必要か、皆様と一緒に考えます。

澤 邦之（内閣府（防災担当）普及・防災教育・NPOボランティア連携担当 参事官補佐）、小竹 琴（内閣府（防災担当）普及・防災教育・NPOボランティア連携担当 参事官補佐）、明城 徹也（特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）、吉田 建治（特定非営利活動法人 日本NPOセンター）、由利 佑那（社会福祉法人 全国社会福祉協議会（全国ボランティア・市民活動振興センター））、辛嶋 友香里（公益社団法人 ビースポート災害支援センター）、浦野 愛（特定非営利活動法人 レスキューストックヤード）

S-21 6㊦ 16:30 ~ 18:00 2F スノーホール B

自治体向け | 一般向け

災害に強い社会に向けたデジタル技術の活用とその地域実装に向けた課題と実現に向けて

主催団体：NTT 東日本 防災研究所

本セッションでは、激甚化する災害に加え、人口減少や少子高齢化に伴い様々な課題が顕在化している「地域防災」について、どのような未来を描き、その未来に向けてどのような活動を行うべきかを、専門家を招いて共に考察します。



笹倉 聡（NTT 東日本 防災研究所 所長）、江口 清貴（防災DX官民共創協議会 専務理事 / AI防災協議会 理事 / 神奈川県庁CIO兼 CDO / 一般社団法人耐災害デジタルコーディネーションセンター代表理事）、菅野 拓（大阪公立大学大学院 文学研究科 准教授 / 内閣官房「防災庁設置準備アドバイザー会議」専門委員 / 内閣府「被災者支援のあり方検討会」委員 / 石川県「令和6年能登半島地震復興・復興アドバイザーボード」委員）

S-23 7㊦ 12:30 ~ 14:00 2F スノーホール B

自治体向け | 一般向け

地震・火山研究最前線を知る～何がわかってきたのか

主催団体：東京大学地震研究所 地震火山観測研究推進協議会 防災リテラシー部会

最新研究によって、地震や火山の姿は、どこまで解明されたのでしょうか。このセッションでは、これまでの研究成果をわかりやすくまとめた資料をもとに、地震・火山研究の最前線を紹介。主に、内陸で発生する被害地震、南海トラフ沿いの巨大地震、首都直下地震、千島海溝沿いの巨大地震、大規模火山噴火、高リスク小規模火山噴火を取りあげます。後半は登壇者とのトークセッションも設けます。



木村 玲玖（兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授 / 東京大学地震研究所地震火山観測研究推進協議会防災リテラシー部会 部会長）、田村 圭子（新潟大学危機管理本部危機管理センター 教授 / 東京大学地震研究所地震火山観測研究推進協議会企画部 元戦略室員）、加藤 尚之（東京大学地震研究所 教授 / 東京大学地震研究所地震火山観測研究推進協議会企画部 推進室員）、高橋 誠（名古屋大学大学院環境学研究科 教授 / 東京大学地震研究所地震火山観測研究推進協議会防災リテラシー部会 副部会長）

S-18 6㊦ 10:30 ~ 12:00 2F スノーホール B

企業向け | 自治体向け

事業継続 (BC) 普及セミナー

主催団体：特定非営利活動法人事業継続推進機構

2004年（平成16年）10月23日の新潟中越地震、2007年（平成19年）7月16日の新潟中越沖地震における企業の事業継続の取り組み事例を、前半の講演にてご紹介します。後半はパネルディスカッション形式で、今後予測される災害に対して現在のBCPが機能するかを多角的に検証し、これからの事業継続に求められる要素を整理していきます。

S-20 6㊦ 14:30 ~ 16:00 2F スノーホール B

自治体向け | 一般向け

にいがたの産官学民プロジェクトが考える～防災気象情報を防災・減災の活動にどう活かすか～

【主催】新潟大学危機管理本部危機管理センター【共催】新潟地方気象台

「にいがた防災」産官学民プロジェクトについて、理工人社、農、医療分野の新潟大研究者が、連携団体との関わり・事例を含め、わかりやすく紹介。次いで気象台が「令和8年出水期から変わる防災気象情報」を話題提供。最後には、本情報をいかに地域防災に活かすことができるか、産官学民プロジェクトの異なる視点から議論する。にいがたの防災・減災の活動の共有・発信を通して、全国の活動団体からの反応や交流を期待しています。



ト部 厚志（新潟大学災害復興科学研究所 所長/教授）、藤村 忍（新潟大学農学部食品科学プログラム 教授/地域連携フードサイエンスセンター 事務局長）、高橋 昌（新潟大学大学院災害医学・医療人育成分野 特任教授）、菅野 能明（新潟地方気象台長）、田村 圭子（新潟大学危機管理本部危機管理センター 教授）

S-22 7㊦ 10:30 ~ 12:00 2F スノーホール B

自治体向け | 一般向け

ジェンダー視点による被災者支援の意義と実際 ～男女共同参画センターの活動及び多様な主体の連携の視点から考える～

主催団体：独立行政法人国立女性教育会館、特定非営利活動法人全国女性会館協議会、TEAM 防災ジャパン

防災や男女共同参画の分野で活躍する多彩な登壇者が「ジェンダー視点での被災者支援」をテーマにパネルディスカッションを行います。阪神・淡路大震災から現在までの状況を振り返り、地方自治体の防災担当部署や男女共同参画センター、関係団体、ボランティアなど多様な主体の連携を踏まえた今後の在り方を考えます。

パネリスト：浅野 幸子・木須 八重子・坂田 静香・明城 徹也

コメンテーター：加藤 孝明

コーディネーター：萩原 なつ子



浅野 幸子（減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表、TEAM防災ジャパン アドバイザー）、加藤 孝明（東京大学生産技術研究所教授、TEAM防災ジャパン アドバイザー）、木須 八重子（元仙台市宮城野区長、前公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長）、坂田 静香（特定非営利活動法人全国女性会館協議会事務局長）、明城 徹也（特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長、TEAM防災ジャパン お世話係）、萩原 なつ子（独立行政法人国立女性教育会館理事長）

S-24 7㊦ 14:30 ~ 16:00 2F スノーホール B

自治体向け | 一般向け

新潟の地震、分かっていること、わからないこと～皆さんの疑問にお答えします～

主催団体：公益社団法人 日本地震学会

1964年新潟地震、2004年新潟県中越地震、2007年新潟県中越沖地震と繰り返し地震に遭ってきた新潟。そして2024年能登半島地震後の佐渡島方面への活動など、新潟周辺の地震について、分からないこと、知りたいことに、地震の研究者から答えられる説明動画を事前配信。当日の1時間半は、それに寄せられた疑問、質問に対してお答えし、会場に集まった皆さんと、研究者との間で双方向のやり取りを中心的に行います。



佐藤 比呂志（東京大学名誉教授（地震研究所）、静岡大学防災総合センター客員教授）、篠原 雅尚（東京大学地震研究所観測開発研究センター長/教授）、青木 元（仙台管区気象台気象防災部地震火山課 地震津波防災官）、久家 慶子（京都大学大学院理学研究科 教授、日本地震学会会長）

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

S-25 6 10:30 ~ 12:00 2F 中会議室 (201A)

自治体向け | 一般向け

宇宙からの防災・減災を目指す～リモートセンシング、準天頂衛星システムの積極的な活用～

主催団体：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局

減災・災害復旧等への貢献が期待される、人工衛星によるリモートセンシングや日本の測位衛星である「みちびき」のサービス・実証について紹介し、また専門家をお招きして宇宙からの防災・減災に関するパネルディスカッションを実施いたします。



三上 建治（内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 参事官 / 準天頂衛星システム戦略室 室長）、和田弘人（内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室 企画官）、嶋津 恵子（事業創造大学院大学 教授 / 開志創造大学 情報デザイン学部（仮称） 教授）、川北 史朗（国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター 技術領域主幹）、外山茂浩（長岡工業高等専門学校 副校長（教務主事）、電子制御工学科 教授）、鈴木 弘二（株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル 上席理事 / アジア防災センター プロジェクトディレクター）

S-26 6 12:30 ~ 14:00 2F 中会議室 (201A)

自治体向け | 一般向け

準天頂衛星システム (QZSS) の利活用による減災技術の国内外の取り組み

主催団体：事業創造大学院大学 / 開志創造大学情報デザイン学部

S25のセッション内容のうち特に日本の準天頂衛星システム (QZSS) の災害時利用に関し、事例等を交えて紹介します。QZSSが提供する災害時情報配信を世界展開することの価値や各国からの期待、日本国内での実証実験事例と海外展開の構想を紹介し、参加者のみなさんからの質問や意見交換を行います。



三上 建治（内閣府・宇宙開発戦略推進事務局参事官/準天頂衛星システム戦略室長）、嶋津 恵子（事業創造大学院大学 教授 / 開志創造大学 情報デザイン学部 教授）、鈴木 弘二（株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル上席理事）

S-27 6 14:30 ~ 16:00 2F 中会議室 (201A)

自治体向け | 一般向け

オンライン防災 2025IN 新潟 ～トークセッション 愛する人を守るためにⅡ～

主催団体：オンライン防災

愛する人を守る術を、それぞれの立場で発信し続けてきたゲストによるトークセッション。ぼうさいこくたい0年の節目に、この人気の秘密に迫り、東日本大震災からの教訓を怖がらせることなく伝えていくことを実践者に聞き、被災地を見続けてきた研究成果などをお話いただきます。公開生放送スタイル。どなたでも気軽にお越しください。



室崎 益輝（防災学者 神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授・減災環境デザイン室顧問 日本防災士会顧問）、後藤 隆昭（前内閣府（防災担当）参事官（現国土交通省））、黒田 典子（オンライン防災 代表）、神保 一江（新潟県燕市児童研修館「こどもの森」館長・NURIE大使）、岡村 智樹（ぼうさいNURIE大使 リーダー）、山中 弓子（親子支援・災害看護支援*てとめと代表、看護師、防災士、ぼうさいNURIE大使等）、柳沼 裕子（よんなな防災会女子部（郡山市役所）・NURIE大使）、小松 宏（防災士 NURIE大使）

S-29 7 10:30 ~ 12:00 2F 中会議室 (201A)

自治体向け | 一般向け

新総合防災情報システム (SOBO-WEB) の利活用に向けたアイデアソン

主催団体：内閣府（防災デジタル・物資支援担当）

新総合防災情報システム (SOBO-WEB) のアイデアソンを開催します。本システムでは、各機関から集約した情報を地図上で重ね合わせて表示することができます。「データをどのように掛け合わせれば」各機関の災害対応に役立つのか、システムを利活用するためのアイデアを募集します。（※1次選考締切7/25）1次選考通過者を対象とし、本セッションにて最終選考を行い、優秀者に防災担当大臣賞等を授賞します。

S-31 7 14:30 ~ 16:00 2F 中会議室 (201A)

自治体向け | 一般向け

内閣府 災害中間支援組織の果たす役割

主催団体：内閣府 普及・防災教育・NPO ボランティア連携担当

内閣府では、「官民連携による被災者支援体制整備に向けたモデル事業」を実施し、全都道府県に「災害中間支援組織」の活動の体制強化・機能強化について取組んでいる。ぼうさいこくたいでは、モデル事業に取り組む自治体と関係団体の当事者が一堂に介し、各地域の特徴や課題について共有し、地域にあった災害中間支援組織について話し合います。

参考情報）内閣府HP「災害中間支援組織について」
<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/bousai-vol/voad.html>

モデル事業参加自治体及び関係団体（災害中間支援組織）

S-30 7 12:30 ~ 14:00 2F 中会議室 (201A)

専門向け(学術界) | 自治体向け

『すみません』を言わせない被災地支援 ～応援と受援から考える効果的なコミュニケーション～

主催団体：一般社団法人 地域安全学会 実務者企画委員会

大規模災害においては、総務省の応急対策職員派遣制度により、総括支援チーム、避難所運営などのための対口支援チームが派遣されますが、これまでの学びを通じて、応援側、受援側両者の意思疎通、相互理解の大切さが改めて見えてきました。本セッションでは、能登半島地震を題材にして、応援側と受援側とで実際にあったコミュニケーションの実例を紹介したくともに、そのあり方について実務者、研究者で議論を深めます。



成瀬 聡志（名古屋市防災危機管理局防災企画課長）、保下 徹（輪島市教育委員会教育部生涯学習課 課長補佐）、長尾 聡（新潟県交通政策局 参事（港湾整備課長））、阪本 真由美（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授）、有吉 恭子（吹田市総務部 防災政策推進監）

S-32 6 10:30 ~ 12:00 2F 中会議室 (201B)

専門向け(学術界) | 自治体向け

能登半島の経験に学ぶ ～地震・液状化・大雨・大雪に対する自助・共助・公助～

主催団体：日本学術会議土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会、防災減災連携研究ハブ (JHOP)

東日本大震災や能登半島地震では、人口減少や高齢化地域での災害時の深刻な課題が明らかになりました。本セッションでは「能登半島の経験に学ぶ ～地震・液状化・大雨・大雪に対する自助・共助・公助～」をテーマに、地震と大雪などの複合災害への対応や自助・共助・公助の役割や新たな仕組みについて、多様な視点で意見を交わし、今後のレジリエンス向上にむけて研究者の視点から備えの在り方についても議論します。



小野 裕一（日本学術会議連携会員、東北大学災害科学国際研究所 教授）、竹内 徹（日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員長、東京科学大学名誉教授）、三村 衛（京都大学名誉教授、一般財団法人GRI財団 理事長）、小山 真紀（岐阜大学環境社会共生体研究センター 准教授）、中村 一樹（防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長）、大原 美保（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環 教授）、松浦 泉平（日本学術会議IRDR活動推進小委員会委員、防災科学技術研究所 企画部次長）

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

S-33 6 12:30 ~ 14:00 2F 中会議室 (201B) 専門向け(学術界) | 自治体向け

新潟県長岡市の持続可能な防災教育体制 ～「御用聞き」がつなぐ、学校・地域・家庭の防災～

主催団体：NPO 法人ふさと未来創造堂

新潟県長岡市における、多忙な学校現場の負担を軽減し、地域と連携した持続可能な防災教育の実施と支援体制の構築をご紹介します。取り組みの深掘りし、様々なお立場の皆様からお話いただきます。

- ・「御用聞き」という長岡市独自の仕組みが、学校と地域の顔の見える関係性をどのように育み、防災教育の推進につながっているのか
- ・学校・地域・行政・NPOなど地域が一体的に取り組む防災教育(共有)の重要性など

澤田 雅浩 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授、NPO法人ふさと未来創造堂 理事長)、金澤 俊道 (長岡市教育委員会 教育長)、入澤 義和 (長岡市危機管理防災本部 危機管理監)、盛澤 文雄 (防災玉手箱 御用聞き)、山下 由美子 (防災玉手箱 御用聞き)、中野 雅嗣 (NPO法人ふさと未来創造堂 事務局長)、中野 明子 (NPO法人ふさと未来創造堂 コーディネーター)

S-35 6 16:30 ~ 18:00 2F 中会議室 (201B) 自治体向け | 一般向け

広げよう!女性の防災ネットワーク

主催団体：内閣府男女共同参画局、よんなな防災会女子部、ジャパン女性防災リーダーの会
令和6年能登半島地震における被災地内外の女性防災リーダーによる男女共同参画の視点に立った取組を踏まえ、今後の災害対応において女性防災リーダーが現場に参画し、さらに平時時から女性防災リーダー同士が全国的なネットワークを構築して災害時に迅速に連携する体制づくりのために必要なことについて考える。



岡田 恵子 (内閣府男女共同参画局長)、根上 昌子 (ねがみ みらいクリニック 院長)、小山西喜子 ((一社) 男女共同参画地域みらいねっと代表理事)、藤岡 喜美子 ((一社) こども女性ネット東海執行理事 (公社) 日本サードセクター経営者協会執行理事)、沢田 薫 ((一財) 大阪男女いきいき財団理事兼事務局次長)、松島 陽子 ((特非) U.grandma Japan代表理事)、上岡 智美 (よんなな防災会女子部)、森下美穂 (よんなな防災会女子部)

S-37 7 12:30 ~ 14:00 2F 中会議室 (201B) 専門向け(学術界)

日本災害伝承ミュージアム・ネットワーク セッション 共に取り組みたいこと・できそうなこと

主催団体：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

全国の災害伝承ミュージアムから集う方々に、プレゼンテーションをいただき、これからの連携や連帯について、意見を交換します。



山住 勝利 (ふたば学舎・震災学習ラボ室長)、大場 玲子 (名古屋市港防災センター センター長)、梅津 拓斗 (東日本大震災・原子力災害伝承館 企画事業部 事業課 学芸員)、堀田 弥生 ((公社) 全国市有物件災害共済会 防災専門図書館 司書・学芸員/防災科学技術研究所 自然災害情報室 客員研究員)

S-39 6 10:30 ~ 12:00 1F 展示控室 1 企業向け | 自治体向け

暮らしやすさと防災力を両立するスマートな日常 ～変わる天気、変わるまち、変わらない安心～

主催団体：一般社団法人日本ドローンコンソーシアム

大雨や熱波などの極端な天候や過疎化による生活環境が変わっても、快適さと安全性を失わない自分たちの「まち」。ドローンやDXを使った平時から災害時までシームレスなちょっと便利で安心なまちと暮らしを共に考えましょう。



黒岩 彰 (群馬県端恋村 副村長)、樋口 勲、日高 雄一郎 (群馬県端恋村 DX戦略監 / スカイビュージャパン株式会社代表取締役 / JDC防災部会)、木村 良彦 (株式会社かみえちご測地)、酒井 直樹 (JDC理事 / 防災部会長、国立研究開発法人防災科学技術研究所上席研究員)

S-34 6 14:30 ~ 16:00 2F 中会議室 (201B) 企業向け | 一般向け

防災にもどこか「好き」と思えるポイントを見つけよう!

主催団体：東北大学災害科学国際研究所

【招待講演】防災士 / 整理収納アドバイザー・Misa氏、【パネルディスカッション】ファシリテーター：東北大学災害科学国際研究所・佐藤健教授、パネラー：同・藤本慎也特任研究員、Misa氏、仙台市減災推進課・早坂政人氏、新潟医療福祉大学看護学部3年・白鳥綾子氏、指定討論者：株式会社良品計画ソーシャルグッド事業部 いつものもしも担当・本田晃、東北大学災害科学国際研究所・中鉢奈津子特任准教授



Misa (防災士 / 整理収納アドバイザー)、佐藤健 (東北大学災害科学国際研究所・教授)、早坂政人 (仙台市危機管理局減災推進課)、白鳥綾子 (東北 DMAS メンバー、新潟医療福祉大学看護学部3年)、藤本慎也 (東北大学災害科学国際研究所・特任研究員)

S-36 7 10:30 ~ 12:00 2F 中会議室 (201B) 企業向け | 自治体向け

AI が変わる防災の世界 ～カオスマップを通して考える未来地図～

主催団体：AI 防災協議会

目覚ましい発展を遂げるAIを活用して、いま多種多様な防災のソリューションが生まれています。これらを最大限活用することにより、事前防災の取り組みや発災後の応急対応、そして被災地支援の在り方も大きく変わる可能性があります。このセッションでは、様々な企業がAI防災ソリューションを使って目指す新しい防災の世界について徹底的に議論します。



臼田 裕一郎 (AI防災協議会 理事長)、江口 清貴 (AI防災協議会 理事 / 神奈川県CIO兼CDO / 防災DX官民共創協議会 専務理事 / 一般社団法人耐災害デジタルコーディネーションセンター 代表理事)、鈴木 智恵子 (佐賀大学医学部看護学科 生涯発達看護学講座小児看護学領域 教授)、曾谷 英司 (イームズロボティクス株式会社 代表取締役社長 / JUAV(日本産業用無人航空機工業会) 理事 / ERA(環境ロボティクス協会) 理事 / FAS(ふくしま次世代航空戦略推進協議会) 副会長)、林 泰弘 (PwCコンサルティング合同会社 執行役員 パートナー)、村上 建治郎 (株式会社Spectee 代表取締役CEO)

S-38 7 14:30 ~ 16:00 2F 中会議室 (201B) 一般向け

「中越から学ぶ 能登の復興と震災伝承」

主催団体：認定特定非営利活動法人 日本防災士機構

基調講演で、長岡技術科学大学の上村教授に、「中越から学ぶ 能登の復興と震災伝承」をテーマに講演いただき、防災士事例発表では、「能登半島地震における災害ボランティア活動」及び「災害ボランティアセンター運営支援～防災士活動の新潟モデル～」をそれぞれ事例発表いただき、現地での(当時)活動及び課題をセッションにて討議することで、今後の災害にいかにも備え、伝承していくかを検討します。



室崎 益輝 (神戸大学名誉教授)、上村 靖司 (長岡技術科学大学教授)、大月 真由美 (NPO法人 石川県防災士会 副理事長)、成川 正一 (日本防災士会新潟県支部 事務局長)

S-40 6 12:30 ~ 14:00 1F 展示控室 1 企業向け | 自治体向け

災害ボランティアセンターのあゆみと今後に向けて

主催団体：新潟県災害ボランティア調整会議

新潟県における本格的な災害ボランティア活動となった2004年の新潟福島豪雨や中越地震。その後も雪害や中越沖地震、7.29水害、糸魚川駅北火、山形県沖地震、県北豪雨、能登半島地震と、数年に一度の割合で災害ボランティアセンターを設置する災害が発生しています。

本県における災害ボランティアの歴史を概観し、全国の支援の変遷と重ね合わせ、その成果と現状の課題点を整理し、今後に向けたあり方の議論を行います。



李 仁鉄 (特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長)、駒井 公 (社会福祉法人全国社会福祉協議会 総務部 全国災害福祉支援センター準備室 部員)、北野 啓子 (社会福祉法人石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター所長兼研修課課長 災害福祉支援センター担当課長)、横堀 直樹 (社会福祉法人新潟県社会福祉協議会 事務局次長・地域福祉課長)

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

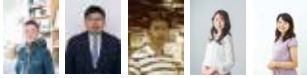
S-41 6 14:30 ~ 16:00 1F 展示控室 1

専門向け(学術界) | 一般向け

- 雪国でない人たちにこそ知ってほしい - 新潟が先導する「命を守る雪の防災」

主催団体：日本雪工学会

全国から大勢の方が集まる「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)」
2025年は、雪国・新潟開催です。
「この絶好の機会に、雪国でない人たちにこそ、命を守る雪の防災を知ってほしい」
その強い想いから本セッションを企画しました。
雪による被害者の特徴と対策の変遷を解説するとともに、安全な屋根雪下ろし、AI雪
害事故予測、自動除雪機といった新潟の多様な取組をパネルトーク形式で紹介します。



上村 靖司(日本雪工学会 会長(長岡技術科学大学・教授)、中村 一樹(日本雪工学会 理事(防
災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長))、諸橋 和行(日本雪工学会 除雪安全行
動研究委員会委員長(中越防災安全推進機構 事務局長))、田中 さき(農業タレント、農業イン
フルエンサー、川口観光大使、リポーター、ニュースキャスター、モデル)、丸山 未央(ママ
司会者、イベントプロデューサー、新潟長岡子連れおでかけインフルエンサー、2018長岡市観
光大使)

S-43 7 10:30 ~ 12:00 1F 展示控室 1

自治体向け | 一般向け

福祉避難所としての特別支援学校の可能性と課題

主催団体：特別支援学校の災害対策を考える facebook グループ

2024年秋、内閣府から全国の防災行政・教育関係者へ「特別支援学校を障害のある
子供のための福祉避難所に指定する取組の推進について」との通知がありました。
通い慣れた特別支援学校が、そこに通う児童生徒や卒業生とその家族の福祉避難所
になることは、基本的には歓迎すべきだと思います。ただ、この通知を生かすものにするには、課題の整理とさらなる工夫が必要ではないでしょうか。
一緒に考えてみませんか。



青田 良介(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授)、楠本 あゆ美(日本防災研究所 所長)、小村 隆史(常
葉大学社会環境学部 准教授)、前川 良栄(一社)福祉防
災コミュニティ協会 所属)

S-45 7 14:30 ~ 16:00 1F 展示控室 1

自治体向け | 一般向け

災害時の建物調査・罹災証明書発行のための 応援・支援の枠組

主催団体：チームにいがた

災害が激甚化・頻発化する今日、大規模災害時には、自治体間の相互応援の
取組が重要となります。とりわけ、建物被害認定調査は被災者の生活再建支援
の第一歩となる重要な業務です。

このセッションでは、令和6年能登半島地震の被災自治体への支援の取組を
通して、災害時の建物被害認定調査業務や自治体間の相互応援の重要性を全国
に向けて発信します。



田村 圭子(新潟大学危機管理本部 危機管理センター
教授)、井ノ口 宗成(立命館大学政策科学部教授)、堀
江 啓(MS&ADインテリクス総研株式会社 取締役
役・フェロー)、諸橋 和行(公益社団法人中越防災安全推
進機構 事務局長)、亀田 雄太(東京都総務局総合防
災部復興担当課長)、吉村 哲哉(福島県危機管理部災
害対策課主幹)、堀 健男(新潟市財務部資産税課家屋
第1係長)、小出 祥之(新潟県防災局防災企画課主任)

S-47 6 12:30 ~ 14:00 1F 展示控室 4A

専門向け(学術界) | 自治体向け

多様な避難ニーズに応えるための新たな選択肢 ー 官民連携で実現する有事における民泊活用の最前線

主催団体：多様な避難支援に関する官民連携 PT

近年の大規模災害では、要配慮者を含む多様なニーズに応える避難先の確保が課
題となっています。本セッションでは、能登半島地震や東京都墨田区の事例をもとに、
民泊をはじめとする、多様なニーズにより適した新たな避難先の活用事例について紹
介します。また、こうした避難先が災害時に迅速に機能するよう、平時から官民が連携
して構築すべき支援体制について、産学官民それぞれの立場から具体的に議論します。



阪本 真由美(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教
授)、藤沢 烈(一般社団法人RCF代表理事)、瀧澤 俊享
(墨田区都市計画部危機管理担当 防災課長)、大屋 智浩
(Airbnb Japan株式会社 公共政策本部 本部長)

S-42 6 16:30 ~ 18:00 1F 展示控室 1

自治体向け | 一般向け

【討論】新潟から能登へ 災害情報の進化と課題 ～戦略的イノベーションプログラム(SIP)の取組みを踏まえて～

主催団体：防災科学技術研究所 SIP 第3期サブ課題 C チーム

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期の取組を紹介したうえで、
中越地震から能登半島地震の約20年における災害情報共有の進化と課題につい
てパネル討論形式で熱い討論を繰り広げます。



伊勢 正(国立研究開発法人 防災科学技術研究所 先進防災技術連携研究センター 研究統括)、油
仁一(金沢市消防局 消防局長)、今金 元(東京エレクトロン株式会社 総務部 アドバンストシ
ニアプロフェッショナル)、木村 勇一(公益財団法人新潟観光コンベンション協会 副理事長)、中
川 和行(新潟市江南消防署消防課長)、飯田 真知子(国立研究開発法人防災科学技術研究所 先
進防災技術連携研究センター 特別技術員)

S-44 7 12:30 ~ 14:00 1F 展示控室 1

専門向け(学術界) | 一般向け

能登半島地震被災者の声から法制度をつくる ～珠洲市の医療福祉・生活再建支援の現場から～

主催団体：災害復興法理論研究会

能登半島で様々な活動を行っているピースウィンズ・ジャパンの取組みから、災害関
連死対策、罹災証明、被災者の健康・福祉支援、避難所の環境整備等につい
て現場ならではの課題を提示いただきます。これを受けて災害復興法理論研究
会では、現場実務と法理論の架け橋として、あるべき法制度や復興政策につい
ての提言を行い、教訓を未来へと繋ぎます。



橋本 笠子(特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャ
パン 国内事業部次長)、金子 由芳(神
戸大学社会システムイノベーションセンター
教授)、山崎 栄一(関西大学社会安全学部 教
授)、飯 考行(専修大学法学部 教授)、岡本
正(銀座パートナーズ法律事務所 弁護士・気
象予報士 新潟大学研究統括機構客員教授・
ELSiセンター防災減災ユニット長)

S-46 6 10:30 ~ 12:00 1F 展示控室 4A

一般向け | 学生向け

災害伝承セッション「100年後の共感へ」

主催団体：災害伝承セッション連絡協議会

災害伝承に取り組む各地の若者が、伝承のリアルな問いを共有し語り合います。今年
は阪神地域、宮城、石川、そして山古志から、災害伝承を模索するひとびとが集まり
ます。経験と世代を重ねてきた被災地から、新たな被災地から、問いとことばを重ね
ましょう。



佐藤 杏香(司会)(あすバユース震災語り部隊
元メンバー)、松井 智美(山古志木籠集落・郷
見庵)、徐 孝輔(あすバユース震災語り部隊メ
ンバー、大阪明星高等学校2年生)、若生 遥斗
、高原 耕平(サブ司会)(金沢大学能登里山里海
未来創造センター特任准教授)

S-48 6 14:30 ~ 16:00 1F 展示控室 4A

自治体向け | 一般向け

避難所でどう伝える? ICTと遠隔手話通訳の実践 ー自治体でできる、ろう者・難聴者への情報提供 最前線ー

主催団体：株式会社プラスヴォイス

災害時、音声情報が届かないろう者・難聴者にとって、命を守る情報提供は不可欠で
す。2025年施行の手話施策推進法や災害対策基本法改正により、自治体には情報
提供体制の整備が求められます。セッションでは、能登半島地震で実際に活用された
ICTを使った遠隔手話通訳の活用事例を紹介し、通訳者も被災する中でどう支援を継
続するか、地域・自治体・専門家の連携による「誰ひとり取り残さない防災」の実現
方法を共に考えます。



藤田 明美(新潟県加茂市 市長)、金澤 貴之(群
馬大学共同教育学部 教授)、新潟県聴覚障
害者協会、吉岡 真人(ビデオメッセージ)(石
川県聴覚障害者災害救援対策本部長 兼 石川
県聴覚障害者協会理事・事務局長)、三浦 宏
之(株式会社プラスヴォイス 代表取締役)、
鬼木 笑(司会)(株式会社プラスヴォイス)

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

S-49 6 16:30 ~ 18:00 1F 展示控室 4A

専門向け(学術界) | 企業向け

能登とともに、未来をつくる。～能登の創造的復興から考える、アカデミアの使命。次世代の能登のために何ができるか～

主催団体：金沢大学

令和6年能登半島地震および令和6年奥能登豪雨からの能登の創造的復興において、大学が果たすべき役割と使命について考えます。長年にわたって地域とともに活動してきた実績をもとに、大学だからこそできる復興支援について、産官学それぞれの立場から関係者が議論します。



谷内江 昭宏(金沢大学理事・副学長、能登里山里海未来創造センター長)、藤沢 烈(一般社団法人 能登官民連携復興センター長、一般社団法人 RCF代表理事)、橋口 翔(LINEヤフー株式会社 ソーシャルアクション推進室)

S-50 7 10:30 ~ 12:00 1F 展示控室 4A

専門向け(学術界) | 企業向け

「ビジネスレジリエンスの推進」～事業継続(BC)+ビジネスレジリエンスへの取り組み～

主催団体：一般財団法人危機管理教育 & 演習センター

本セミナーでは、能登半島地震、豪雨で被災したもとやスーパーが従来の地域のスーパーから生まれ変わろうとしているビジネスレジリエンスの実践の取り組みや、新型コロナで既存顧客から受注が減った中からのビジネスレジリエンスの取り組み、レジリエンス経営の取り組みや事業継続(BC)の取り組みにいかにしてビジネスレジリエンスに進化していくのかを情報提供させていただきます。

村山 直康(内閣官房 国土強靱化推進室 参事官)、本谷 一知(もとやスーパー 社長)、菊地 拓也(株式会社旭フーズ 代表取締役)、宮村 和谷(パートナー、PwC Japan有限責任監査法人)、細坪 信二(一般財団法人危機管理教育&演習センター 代表理事)、平香 かつり(特定非営利活動法人事業継続推進機構 事務局長)、荒井 富美雄(一般社団法人 レジリエンスジャパン推進協議会 普及促進本部長)

S-51 7 12:30 ~ 14:00 1F 展示控室 4A

専門向け(学術界) | 一般向け

防災×デジタル ～災害デジタルツインのいま・みらい～

主催団体：SIP「スマート防災ネットワークの構築」

「災害デジタルツイン」の最新の研究開発動向を紹介するとともに、今後どのように活用が広がり、国民の安全・安心の実現につながるのか、各分野の事例をもとに議論します。

本セッションは、会場を同じ建物(朱鷺メッセ)の3階、小会議室(303+304)に移して開催します。展示控室4Aをサテライト会場としてオンラインライブ配信します。



楠 浩一(東京大学 地震研究所 災害科学系研究部門 教授)、越村 俊一(東北大学 災害科学国際研究所 教授/株式会社RTi-cast CTO)、重野 寛(慶應義塾大学 理工学部 情報工学科 教授)、柴崎 真理子(LocatoMind株式会社 ビジネスグループコンサルティング部署 コンサルタント)

S-52 7 14:30 ~ 16:00 1F 展示控室 4A

企業向け | 一般向け

地震を知って震災に備える/住宅耐震化を進めて在宅避難

主催団体：日本木造住宅耐震補強事業者協同組合

1995年阪神・淡路大震災で大きな教訓となった「住まいの耐震化」は、いまだ事前防災の第一課題となっています。2024年能登半島地震では高齢・過疎地域、軟弱地盤で住宅被害が見られました。また、南海トラフ巨大地震や首都直下地震等、大地震が高い確率で発生することが予想されています。住宅の耐震化の啓発を行う木耐協が「今後の震災にどう備えるか」をテーマに、地震学・防災備蓄の専門家を交えて意見交換を行います。



平田 直((一社)防災教育普及協会会長・東京大学名誉教授)、長柴 美恵((一社)防災備蓄収納プランナー協会 代表理事)、小野 秀男(日本木造住宅耐震補強事業者協同組合 理事長)、関 励介(日本木造住宅耐震補強事業者協同組合 事務局長)

セッションオンライン

S0-01 6 12:30 ~ 14:00 オンライン

一般向け | 子供向け

WPP グループ Japan Pet Press

主催団体：福祉とペット活動 近未来のカタチ

ペットと福祉活動 災害時には何が必要か、平時からできることは そんなことを一緒に考えてみたいと思います

澤田 真希子(Japan Pet Press 共同代表・モデル 水無瀬の文化継承の会3役)、蘭牟田 なつみ(Japan Pet Press アンバサダー ラジオパーソナリティ)、浅越 和夫(写真・映像担当)、藤重 裕(創設者)

S0-02 6 14:30 ~ 16:00 オンライン

専門向け(学術界) | 一般向け

災害と先端技術 新災害医療スタイル – 新しいカタチ –

主催団体：一般社団法人 Drone AI 技術研究機構 (Drone AI LAB)

- 1 防災意識の日常化、防災技術の日常化
- 2 日本が誇るQR技術の活用
- 3 新災害医療スタイル
- 4 課題と挑戦



澤田 真希子(Drone AI 司会・モデル・PuBuRunシンガー)、田口 政行(研究者(防災教育) DMTC支援会)、藤重 裕(理事長 研究者(学者) 安威・阿武山保存会(名誉会長))

S0-03 6 16:30 ~ 18:00 オンライン

専門向け(学術界) | 一般向け

災害医療におけるロジスティクスの重要性

主催団体：公益社団法人日本医師会

近年、災害医療において、医療活動そのものに加えて、それを支えるロジスティクスの重要性が増しています。ロジスティクスは非常に幅広い概念になりますが、被災地の医療ニーズを適切に把握し、支援者の安全を確保しつつ、医療を適切かつ迅速に被災地に届けるためには必要不可欠です。今回、災害医療におけるロジスティクスに着目し、様々なお立場から取り組みをご紹介します。



藤原 弘之(岩手医科大学 救急・災害医学講座 助教/日本災害医学会 災害医療ロジスティクス専門家認定制度ワーキンググループリーダー)、麻田 万奈(日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 執行役員/営業開発部長)、村山 華子(広島大学大学院医系科学研究科公衆衛生学(医歯薬学専攻))、坪井 謙(大宮医師会 理事/さいたま市民医療センター内科部長・救急総合診療科科長)、高橋 昌(日本災害医学会 理事/新潟大学大学院 医歯学総合研究科 特任教授)、松本 吉郎(公益社団法人日本医師会 会長)、茂松 茂人(日本医師会 副会長)、細川 秀一(公益社団法人日本医師会 常任理事)

S0-04 7 10:30 ~ 12:00 オンライン

自治体向け | 一般向け

複合災害に立ち向かう防災の知恵—新潟と能登の経験から

主催団体：(一社)防災学術連携体 + 日本学術会議

本セッションでは、新潟県やその周辺地域で過去に発生した地震、豪雪、豪雨などの災害を振り返るとともに、2024年に発生した能登半島地震の教訓を皆で共有します。異なる災害が複合的に発生するリスクを踏まえ、防災に関する最新の知見や情報を、関連する学術分野の専門家が分りやすく解説します。防災のための正しい自助・共助の行動へとつなげていくために、多くの皆様に聴いていただきたいと思います。



竹内 徹(日本学術会議会員、防災減災学術連携委員会委員長、東京科学大学名誉教授、前日本建築学会会長)、渦岡 良介(防災学術連携体代表幹事、公益社団法人地盤工学会会長、京都大学防災研究所教授)、北田 泰緒(一般社団法人 日本応用地質学会 副会長、一般社団法人 GRI財団理事)、溝口 敦子(名城大学理工学部教授、東北大学災害科学国際研究所教授(クロスアポイントメント))、鍛田 泰子(神戸大学大学院工学研究科教授)、安田 進(東京電機大学名誉教授・総合研究所客員教授)、木村 一幸(国土交通省北陸地方整備局企画部 事業調整官)、米田 雅子(防災学術連携体代表幹事、宇都宮大学理事 第24、25期日本学術会議会員(～2023/09))、山本 佳世子(電気通信大学大学院情報理工学研究科教授、日本学術会議連携会員、防災学術連携体運営幹事)、永野 正行(東京理科大学創成理工学部建築学科教授、日本学術会議連携会員、防災学術連携体運営幹事)

第10回 防災推進国民大会 in 新潟

SO-05 7 12:30 ~ 14:00 **オンライン** 専門向け(学術界) | 自治体向け

広島県の防災教育の可能性を考える

主催団体：広島県

防災の『自分ごと』化や、地域全体の防災力向上を図るための効果的な防災教育のあり方などについて、登壇する団体の取組紹介と、ディスカッションを実施。



海堀 正博(広島大学名誉教授・特命教授、防災・減災研究センター学術顧問)、河原 能久(広島大学名誉教授、土木学会名誉会員)、牧野 美三夫(八木松住自治協議会副会長兼防災部会長)、西 正敏(広島県安芸郡坂町立小屋浦小学校教諭・防災教育担当)、藤山 英人(広島県安芸郡海田町立海田中学校 校長)、堀江 要造(大竹市総務部危機管理課 参与(自主防災育成担当))、松本 知浩(広島県危機管理監みんで減災推進課主査)

SO-07 6 14:30 ~ 16:00 **オンライン** 専門向け(学術界) | 自治体向け

山林火災における効果的な消火対策を検証する

主催団体：株式会社ファイテック

近年、気候変動や森林環境の変化により、林野火災は全国的に深刻化の一途をたっています。本セッションでは林野火災に対する弊社の林野火災対策について、オンラインを通じて紹介致します。また、ご参加の皆様とともに、林野火災における現実的な課題や、現場での運用面の工夫について意見交換を行いたいと考えております。防災力の向上と実効性ある連携体制の構築に向けて、議論を深めてまいりたいと存じます。

林 富徳(代表取締役社長)

SO-09 7 10:30 ~ 12:00 **オンライン** 企業向け | 一般向け

いのちを守る防災 CAMP

主催団体：一般社団法人いのちを守る@プロジェクト JAPAN

防災劇場、エンタワークショップ等楽しい防災イベントの紹介やLIVE配信体験型防災訓練「いのちの体験教室®」活動実績紹介など。

高貝正芳(代表理事)、マジシャンKassy(IMPy認定防災講師)、マジシャンSATOYA

SO-06 6 12:30 ~ 14:00 **オンライン** 自治体向け | 一般向け

超高齢社会で考える避難のあり方 ～世代をこえた共助へのヒント～

主催団体：防災・減災日本 CSO ネットワーク (JCC-DRR)

超高齢社会で災害が起きたとき、高齢者をはじめ誰一人取り残さないために、今できることは何か。本セッションでは、高齢化率が30%を超える新潟県十日町市における取り組みや、「新潟市防災士の会」の活動などを事例に、地域リーダー、研究者、NGOなど多様な立場から「高齢者と防災」を捉え直し、共助に活きる日常のつながりを可視化・強化するヒントや、平時からの多世代連携のあり方について、多角的に考えます。



菟川 由郷(新潟大学大学院医歯学総合研究科 十日町いきいきエイジング講座 特任教授)、小美野 剛(CWS Japan 事務局長)、小奈 みどり(新潟市防災士の会中央区支部 支部長)、浅井 伸行(創価学会インタナショナル 人道・開発部長)、遠藤 晴美(防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR) フォーカル)

SO-08 6 16:30 ~ 18:00 **オンライン** 企業向け | 一般向け

DX 防災教育と事業者の共助防災ネットワーク

主催団体：NPO 法人 CESA

子どもたちが土や木、水遊びから防災を学べるプロジェクト
事業者の自助防災システムと共助防災ネットワークについて

堀 智晴(京都大学教授)、今村 忠彦(NPO法人CESA環境防人マスター)、福永 光(長浜市立高月中学校校長)、稲野 利奈(彦根市立ふたば保育園園長)、三浦 良勝(NPO法人CESA理事長)、早瀬 愛紗(NPO法人CESA事務局長)

SO-10 7 12:30 ~ 14:00 **オンライン** 自治体向け | 一般向け

土と水を対象とした衛星画像・ドローンを用いたアプローチ

主催団体：一般社団法人 日本リモートセンシング学会

本セッションは、国土防災リモートセンシング研究会およびドローン・リモートセンシング研究会共催にて実施いたします。衛星画像とドローン撮影の特長をふまえ、得られるリモートセンシング情報の観点から災害時における衛星画像やドローン技術の活用事例について紹介します。特に、全国の自治体の防災担当者や地域住民の方々にご参加いただき、事前準備や災害時対応を検討する際の参考にしてもらえたらと考えています。

小笠井 衛(茨城大学 教授)、伊東 明彦(一般社団法人日本ドローンコンソーシアム 理事)、齋藤 修(一般社団法人日本リモートセンシング学会 研究会 委員)、石内 鉄平(宮城大学 教授)

■■■■NEXYZ■■■■

「ネクシーズZERO」は一括では導入しづらい高額な業務用設備を初期投資0円で導入できるサービスで、融資ともリースとも違う、新しい設備導入の仕組みを提供している。

動画では、設備導入における悩みを4つのサービスで解決するという「ネクシーズZERO」の特徴を、個人事業主や会社経営者と公式キャラクター「ネクゼロマン®」との掛け合いにより、親しみやすく、インパクトのある内容を3分間で表現している。

<https://service.nexyz-zero.jp/about/>



①設備選択の悩みを「ゼロ」

提携サプライヤー300社以上、取扱商品数49万点以上の中から、お客様の要望に応じて、多数のメーカー・商品から最適な設備を提案します。

LED照明、空調、厨房機器など店舗設備
キュービクル、喫煙ブースなど特殊設備

農業ハウス、灌水設備などスマート農業設備、街の外灯、洋式トイレなど公共設備

②資金調達の悩みを「ゼロ」

設備費・保証金・工事費・運搬費・修理費・保険金などを全額負担するため、お客様の初期投資はかかりません。
月々固定のサービス料のみをお支払いいただきます。

③導入計画の悩みを「ゼロ」

現金購入やリース契約では、相見積りや工事業者の手配など複数の業者とのやり取りが発生しますが、すべての工程を当社がトータルコーディネートします。
複数メーカーの設備導入を1つにまとめられるため、経理面もスムーズです。

④導入後の悩みを「ゼロ」

全国の営業所と自社コールセンターによるサポート体制で、自然故障や台風による水災、盗



難が起きた場合も迅速に対応します。

契約期間終了後は設備所有がお客様に移るため、サービス料が掛け捨てになりません。

⑤設備導入の悩みをゼロに。

当社スタッフは設備導入プランナーとして、街の飲食店から空港まで、個人事業主から官公庁まで幅広いお客様の事業運営を、4つのサービスで戦略的に支援いたします。

(株)ネクシーズグループ

<https://www.nexyzgroup.jp/inquiry/>



■■■■ほっとブレイス72■■■■

2023年10月に東京ビッグサイトで行われた危機管理産業展にて発表し、受注生産を開始し、注目の的となった災害時用寝袋兼敷物「おまもりぶくろ」。

この製品を発表して3ヵ月にも満たないうちに発生した能登の地震であるが、防災敷物企画・開発を行ったのが石川県七尾市の『ほっと。松本』（代表：松本 隆氏）である。
ほっとブレイス72について

（株）ほっとブレイス72は、畳、襖、障子や時々なんでも屋など「暮らしの困った」を解決する会社。中でもとりわけ力を注いでいるのが、災害時における被災者の「ほっと」です。災害時のテレビに映し出される避難所での被災者の「足元」見る度に、畳屋として45年間いつも胸を痛めておりました。様々な課題がありますが、人々がほっと出来る時間と空間を提供し、安心して笑顔で暮らせる社会の実現を目指しています。



被災後72時間で救う

人の命を守る避難所のために

災害発生後、被災で自宅を過ごすことが困難になった方々が一斉に避難所・避難施設に押し寄せます。避難所では、冷たくて硬い床の上にブルーシートや毛布等を敷き、各世帯ごと小さなブースで過ごすこととなります。この避難所での生活は、災害状況によって過ごさなくてはならない期間が異なりますが、支援物資が届くまで、最低でも3日間（72時間）をしのぐことを想定しなければなりません。

関東大震災以来一世紀変わっていない“避難所の盲点”に着目し、折り紙を応用し、敷くだけでゾーニングまで完了する、災害時用寝袋兼敷物「おまもりぶくろ」を考案したという。

コロナ禍は避難所の光景を変えたと思われるがちであるが、相変わらず整然と並ぶ段ボールベッドやテントが主流であり、それらは前もって備えられたもの。とっさの避難時に繰り返されたのは、これまでと同様に避難者にとって極めて不都合な状態である。特に令和になってからの異常気象が常態化し、国内ではますます「想定外の避難」が増加した。

昨今は、優秀な防災用品が登場しているものの、“避難者が入った後で”なんとかしよう／できる…は無理。関東大震災以来、一世紀変わらぬ未だ気づかれぬ“盲点”を解決し、72時間に関連死を防ぎたいという想いで開発したという製品である。

避難所となる施設内に備蓄しておくこと



で、陣取り合戦になりがちな避難所をいち早く区分けし、女性や高齢者のゾーニングや、通路を確保できる。厚さは4mmであるが、ブルーシートに比べて保温性が高いことも確認し、寝袋としても使えるようにしたという。

「おまもりぶくろ」®の7つの特徴。

- ①スピード：体育館一面（約500㎡）120人分敷くのに、僅か2.5分
- ②手軽さ：子供から大人まで誰でも簡単、広げるだけ。自治体職員の手を借りなくてもその場にいる人で対応可能。
- ③コンパクト：省スペース：専用台車1台で180人分。ブルーシート（敷布）や毛布（上掛け）と同じく、コンパクトに施設内に保管できる。
- ④ゾーニング：敷き込み完了＝通路確保とゾーニングも完了。人数把握と名簿作成が容易になる。
- ⑤災害弱者対策：敷くと同時に、女性専用／高齢者／障害のある方専用のゾーンを設けられる。
- ⑥広さ：一区画1.62畳（2.64㎡）。「スフィア基準」の75%を確保。
- ⑦保温性・クッション性：厚さ4mmのクッション入りで下からの冷気を軽減。

* 詳しくはこちら

▶ <https://hot-matsumoto.com>



第10回 防災推進国民大会 in 新潟

P-094 2F アトリウム 自治体向け 一般向け JRAT による災害リハビリテーション支援活動の紹介 主催団体：一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会	P-095 2F アトリウム 自治体向け 一般向け みんなで考えましょう！「照明」による防災への取り組み 主催団体：一般社団法人日本照明工業会
P-096 2F アトリウム 企業向け 一般向け 災害時の健康サポート並びに災害ボランティアへの補助ウェア 主催団体：オンヨネ株式会社	P-097 2F アトリウム 企業向け 自治体向け 民間主体、産官学連携で防災ビジネスを推進！ 日本発の優れた防災技術をご紹介します！ 主催団体：一般社団法人 日本防災プラットフォーム (JBP)
P-098 2F アトリウム 企業向け 自治体向け 防災コンソーシアム CORE / コンソーシアム参画企業様の募集 主催団体：防災コンソーシアム CORE	P-099 2F アトリウム 専門向け(学術界) 一般向け 地震保険をご存知ですか？(迅速な生活再建に向けて) 主催団体：日本地震再保険株式会社
P-100 2F アトリウム 自治体向け 一般向け 音声 SNS が変える防災の未来ーフェーズフリーで、 市民が主導する地域・グローバル連携ー 主催団体：グローバル共和国 (内の防災減災まさかのときの知恵袋共和国)	P-101 2F アトリウム 専門向け(学術界) 自治体向け 「避難者ファースト」避難所には関東大震災から100年以上たっても解決できない「盲点」があります。 主催団体：株式会社ほっとプレイス 72
P-102 1F 展示ホール A 自治体向け 一般向け まちをつくるひとをつくる ～普段のまちづくりが復興を育む～ 主催団体：NPO法人まちづくり学校	P-103 1F 展示ホール A 一般向け 安全なみらいをつくる防災・減災・災害対応への挑戦 ～地域と共に歩む、安心・安全のための取り組み～ 主催団体：一般社団法人日本道路建設業協会 北陸支部
P-104 1F 展示ホール A 自治体向け 一般向け 全国統一型避難誘導標識の普及・啓発について 主催団体：特定非営利活動法人都市環境標識協会	P-105 1F 展示ホール A 自治体向け 一般向け [My 絆 BOX]による防災意識を子どもから大人へ京都から全国に広がる、新しい形の防災ワークショップを 主催団体：株式会社カスナネット
P-106 1F 展示ホール A 自治体向け 一般向け 長野県北部地震等の災害とその防災教育について 主催団体：苗場山麓ジオパーク振興協議会	P-107 1F 展示ホール A 一般向け 学生向け 「なにかしたい」——学生たちの心に寄り添う被災地支援 主催団体：長岡技大ボランティアサークル VOLTofNUTS
P-108 1F 展示ホール A 企業向け 一般向け 東京理科大学 高橋治教授率いるサイエンス構造 × 防災最前線 ～未来の命を守る3つの新技術～ 主催団体：株式会社サイエンス構造／東京理科大学発ベンチャー企業	P-109 1F 展示ホール A 企業向け 自治体向け 国難に備えよう！民間における防災力強化と連携を！！ 主催団体：特定非営利活動法人 日本防災環境
P-110 1F 展示ホール A 企業向け 自治体向け 期日情報を含む地震予測 主催団体：武蔵野大学 データサイエンス学部 武藤佳恭研究室	P-111 1F 展示ホール A 自治体向け 検証！能登半島地震 主催団体：新潟県上越市
P-112 1F 展示ホール A 企業向け 自治体向け 女性視点で考える災害時のトイレ対策 (立っても座ってもできるトイレで災害関連死を防ぐ) 主催団体：合同会社 BOUKEN	P-113 1F 展示ホール A 企業向け 一般向け きほんから学べる！防災クイズ&マニュアル。 読んで、話して、行動のきっかけに。 主催団体：(生団連) 国民生活産業・消費者団体連合会
P-114 1F 展示ホール A 企業向け 自治体向け 地震直後の安全な救助活動支援 主催団体：株式会社ミエルカ防災	P-115 1F 展示ホール A 自治体向け 一般向け 被災地の復旧・復興への支援 主催団体：一般社団法人 日本補償コンサルタント復興支援協会
P-116 1F 展示ホール A 自治体向け 一般向け 「足紋(そくもん)」は、自分を証明する証明書です！ 主催団体：特定非営利活動法人全国足紋普及協会	P-117 1F 展示ホール A 企業向け 自治体向け 「地域の防災力向上と豊かな水環境のために」 主催団体：NPO 法人水環境技術研究会